



ランクでは下から2番目の客室

今回の「十一日間イートクルーズ」は乗船前
ンドネシア・ハイライ 後のシンガポール観光

船内の客室

（アジアン・クルーズ⑤）

を除くと船内で八泊九日。このうちジャワ島、バリ島、ロンボク島観光では下船するので船内で終日過ごしたのは四日間である。

客室だが、募集パンフレットには①海が見えないツイン内側②窓ごしに海が見えるツイン海側③バルコニー付き客室④ジュニアスイート（バスタブ付き）の四ランクがあった。

私は初めての本格的クルーズなので、多少ぜいたくとは思つたが、バルコニー付きを申し込んだ。幸いにも売り切れで、窓から海が見える客室となる。

乗船すると私の部屋は三階、廊下を挟んで両側に客室がずらりと並んでいる。船の全長

は二百六十四m、こん

なことをしたのは私一人であろうが、何室あるか端から端まで数えてみた。片側に五十九室、一番端からでは向こうがよく見えない。拙文ではあるが、この努力だけは評価していただきたい。

乗船してもう一つわかつたことは、前述の四ランクの客室の上に、実はもう四ランクあつたことである。四ランクの客室の上に、実はもう四ランクあつたことである。

船会社が各国の旅行業者に売り出す際、日本には下位四クラスの客室の客を募集したからである。クルーズに關して客室などで貧富の格差があり、旅に出て

まで貧富で区別されるのは自分の生き方に反すると思つていた。

それがパンフレットを見ると余り感じられない。だから申し込んで言えば多少オーバーだが、とにかく大別すると八ランクある客室の中で下から二番目。とはい、今回参加してそれほど格差は感じなかつた。もちろん、お金のことなど全く心配しないような顔をしてカジノで遊んだり、食事の度にボトルワインを注文する人もいる。これはその人の生き方の問題と思う。ちなみに最上級の客



藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

287



片側に59の客室が並ぶ

が、広さは私の部屋の六・六倍、バルコニーがちょうど私の部屋の広さである。しかしこんなことはどうでもいい。ロイヤルスイートから見ても、下から二番目のランクの部屋から見ても海は同じと思うの

まで貧富で区別されることは自分の生き方に反するか端から端まで数えてみた。片側に五十九室、一番端からでは向こうがよく見えない。拙文ではあるが、この努力だけは評価している。ただきたい。

蛇足ながら、もう一度同じコースの旅をするとしたら、最下位の窓なし内側にしようと、最下位の窓なし内側にしようと思ふ。この方が料金は二万円安い。シンガポールからバリ島まで

英語が理解できればもつとこれらの情報を生かせたと思うのだが

なお、船内の生活をより楽しくするため、毎日、日本語の船内新聞が配られ、ショーや映画案内、その日のカルチャー教室の時間と場所などが載っている。



ほど価値

毎日、日本人向けに配られた「船内新聞」